

令和8年1月29日研究公開報告

令和6・7年度大隅地区研究協力校研究公開

鹿屋市立輝北小学校で

「国語科」についての研究公開 が開催されました。

令和8年1月29日（木）に、鹿屋市立輝北小学校にて、大隅地区研究協力校「国語科」の研究公開が行われました。輝北小学校では、研究主題・副題を「『やってみたい!』『解決したい!』」を基に、主体的に学び、学びを自覚する児童の育成～国語科学習指導における『問い』と『振り返り』の充実を通して～」と設定し、2年間の実践的な研究に取り組まれてきました。

当日は、目指す児童像の具現化に向けて、単元で育成を目指す資質・能力や児童自らの興味・関心に基づく「問い」を立てさせるための手立てや、児童が自らの学びを言語化し、学習したことを自覚できるようにする振り返りの視点などが、研究内容として示されました。



【閉会のあいさつ】
桑鶴 直幸 校長先生

【研究発表】

研修係の山下教諭が、本研究において設定した二つの研究の柱に基づき、研究発表を行いました。

【研究の柱Ⅰ】

「問い」づくりに関する内容

単元で身に付けるべき資質・能力や言語活動モデルを児童と丁寧に共有した上で、児童に「問い」を立てさせるとともに、その「問い」を児童自身が整理できるようにしたこと

【研究の視点Ⅱ】

学びを自覚させる「振り返り」に関する内容

教師が振り返りの視点を児童に明確に示した上で、「振り返り」を言語化させるとともに、児童が「振り返り」をいつでも見返すことができるようにしたこと

輝北小学校が抱える学習指導上の課題や、全職員で実現を目指す授業像を基に筋道立てた説明がなされ、2年間の研究の意義や価値が十分に伝わる素晴らしい研究発表となりました。



【研究発表の様子】

【公開授業：第2・5学年 国語科】

単元 読んで、感じたことを伝え合おう
(2年「スーホの白い馬」)

前時までに立てた児童一人一人の問いの解決に取り組む学習が行われました。「課題・めあて」や「学習形態・スタイル」等を児童が自己選択しながら学びを進める「学習者主体」の授業が展開されていました。児童は解決すべき事柄を自覚し、対話を通して考えを深めながら、学びを進める姿も見られました。



【2年生の様子】

単元 登場人物の人物像を捉え、様々な言葉を使ってまとめ、自分の考えを伝え合おう
(5年「大造じいさんとガン」)

「問い」を立てる学習が行われました。児童が単元で身に付けたい資質・能力を自覚し、解決すべき「問い」を、進んで立てる姿が見られました。

また、次時に解決したい「問い」を自己決定させることで、「解決したい!」思いを高め、主体的な学びにつなげていました。



【5年生の様子】

【授業研究】

授業研究では、研究の視点に基づいた協議が行われました。子供たちの学びの様子や互いの指導観を踏まえながら、参加者同士が積極的に意見を交わす様子が見られ、有意義な時間となりました。

参加者から寄せられた意見

- 問いを自分たちで考えることは、子供のやる気につながり、振り返りも達成感を味わいながら書くことができると感じた。
- 児童に「やってみたい」と思わせる仕掛けが数多くあり、これからの学習指導の参考になった。
- 児童が自ら「問い」を立てていて、輝北小学校のこれまでの研究の積み重ねを感じた。